

経営比較分析表

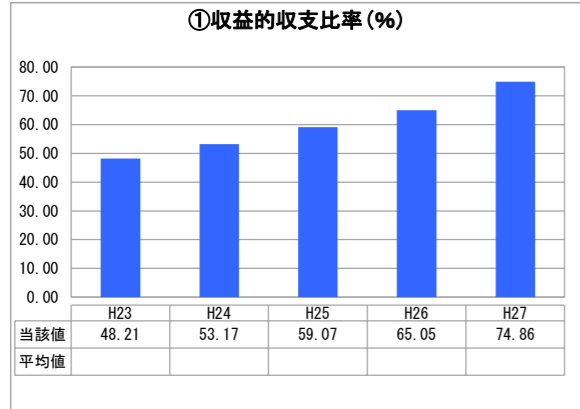
北海道 古平町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	81.76	80.59	4,000

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,344	188.36	17.75
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,711	1.26	2,151.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



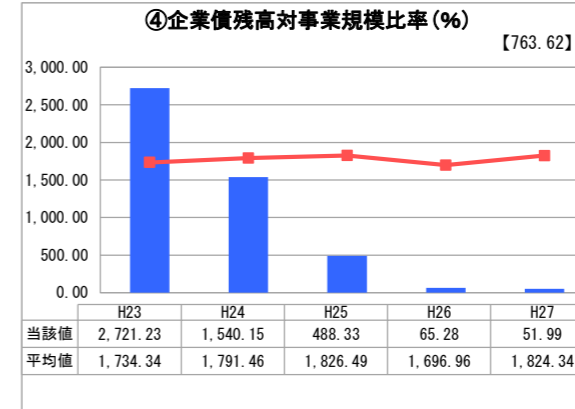
「単年度の収支」



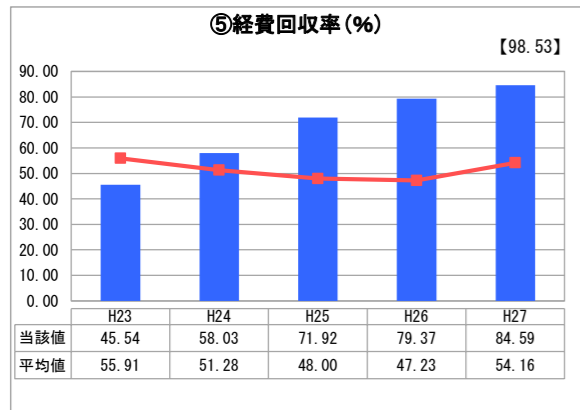
「累積欠損」



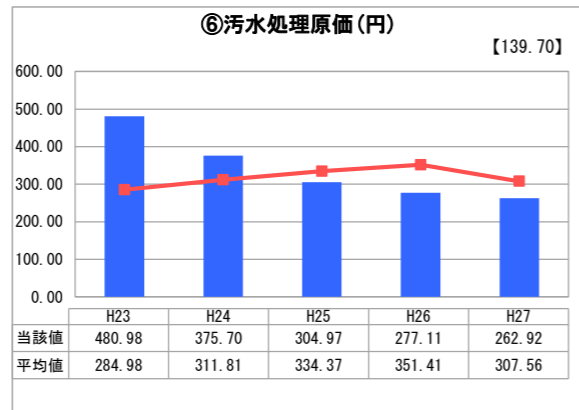
「支払能力」



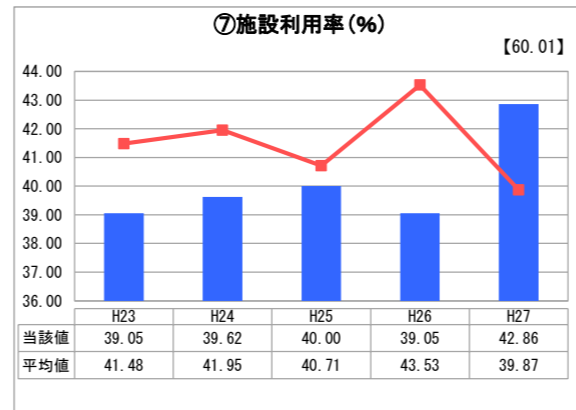
「債務残高」



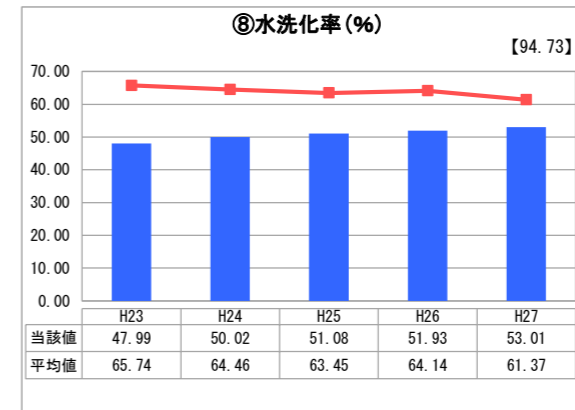
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

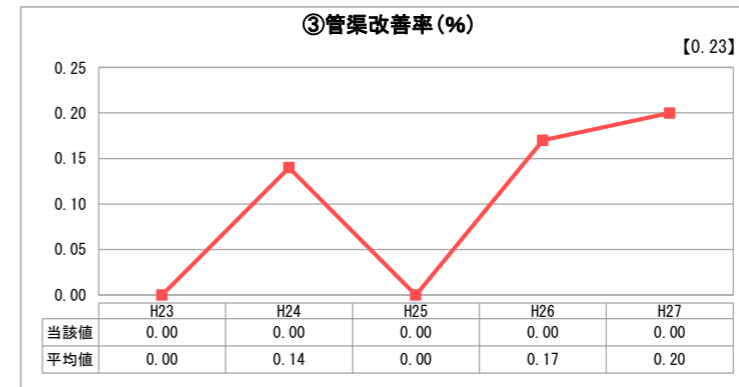
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率と経費回収率は上昇傾向にあるが、その要因として、下水道接続率の上昇に伴う料金収入の増加と、起債償還金の減少によるものであるが、収入の大部分が一般会計からの繰入で賄われているのが現状です。企業債残高対事業規模比率は、平成22年度から施設整備事業を休止し、新たな借入が発生していないため、減少しています。しかし、未整備地区がまだ若干残っていること、施設の老朽化に伴う更新事業が想定され、新たな投資が発生します。水洗化率は微増傾向ではあるが、まだ類似団体の平均値よりかなり低く、改善に努めなければなりません。

2. 老朽化の状況について

本町の下水道は平成16年に供用を開始し、最も古い施設で13年が経過しています。処理場・ポンプ場の機械・電気設備など近く更新時期を迎えるものもあり、効率的な設備のメンテナンス・更新を目的とした、「下水道施設長寿命化計画」を策定し実施していきます。

全体総括

下水道事業の経営状況は、まだ水洗化率及び料金収入の上昇は期待できるが、将来においては、人口減少による料金収入の減少が想定される。また、施設の老朽化に伴う維持管理費の増加、新たな更新費用の発生なども想定され、経営改善に向け、経営戦略を策定し、取り組んでいきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。